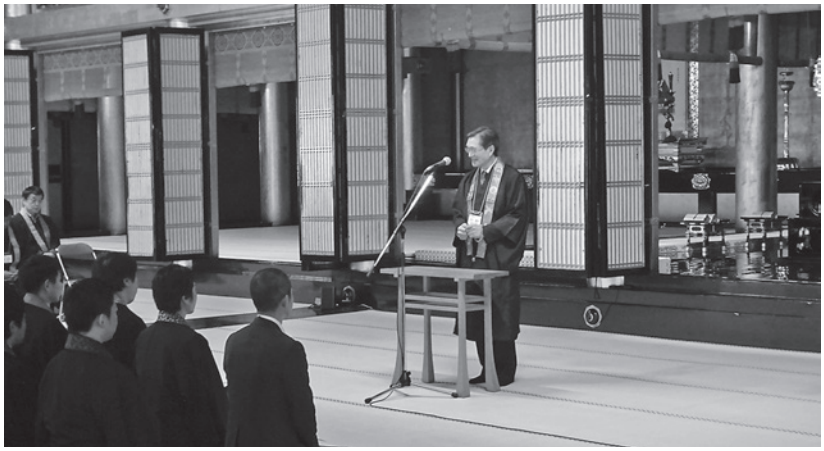
第5回 まことの保育指導者養成中央講座開催報告

保育連盟研修委員会



開講式

2018年１月30日(火)から２月１日(木)までの３日間、西本願寺・聞法会館において、第５回まことの保育指導者養成中央講座が開催されました。

この講座は、「まことの保育」の指導者を養成することを目的として、連盟の研修委員会において講座の構成等を企画し、平成25年度から開始されたもので、今回で５回目を迎え合計114名が受講しています。

今回も各教区の保育連盟から推薦された22名の参加者が学びを深めました。

―1日目―

講座1　まことの保育①
真宗の教えとまことの保育

担当：小池秀章 講師

龍谷大学講師の小池秀章先生より、「真宗の教えとまことの保育」について講義をいただきました。最初に「『まことの保育』とは、親鸞聖人のみ教え（浄土真宗）を根本とする保育であり、浄土真宗のみ教えに生きる保育者が行う保育」と示されました。

そして、浄土真宗とは浄土に往生する（往き生まれる）ことを目指す真実の宗教であり、浄土を目指して生きるとは、お浄土とはどんな世界かを聞かせてもらう中で、自己中心の心から離れられない私を見つめながら生きる。そこに、少しずつではあるが、お浄土という真実の方向へと導かれながら生きる道があり、これを浄土真宗では「お育てにあう」ということだ、と示されました。

最後に、参加者にご法義が分かりやすくしっとりと伝わる、小池玲子作詞、ちひろ作曲の「みほとけさまって　どんな　おかた」

を紹介していただきました。

講座2　まことの保育②
まことの保育課程　理念・目標・ねらい・実践（いのちと食育）
保育連盟の歴史について

担当：髙輪真澄 指導員

この講座は小池先生の話を受け、仏教を保育の中にどのように反映させていくかの話を進めました。

講義の様子

まず「まことの保育の理念」「目標」を通じて成り立ちと由来の話をし、続いて「おやくそく」「ねらい」「まことの保育課程」そして「保育連盟の歴史」と続けました。

今回は夕食を挟んで2部構成だったため、後半は国の行政・法律の上での「まことの保育」の位置、そして今注目されている「新幼稚園教育要領」「新保育指針」などについて話しながら、『まことの保育』を考えてみました。

―2日目―
本願寺探検ラリー

担当：深澤素子 指導員

2日目お晨朝の後、緊張もまだ解けぬ班のメンバーとの一層の親睦を深めることと、普段慣れ親しんでいる本願寺の新たな見どころを発見することを目的として「本願寺探検ラリー」が行われました。埋め木・天邪鬼・沓石・唐門・太鼓楼・経蔵・見残し石・旧梵鐘など、8つのポイントをクイズ形式でめぐりました。各ポイントには指導員の先生が立って詳しく解説しました。今年度は経蔵の四面を開放していただき、普段目にすることのできない内覧をすることができました。当日の境内気温マイナス1℃という寒さでありましたが、ゴール地点では身体も心も温まり親睦が深まった様子でした。

講座3　まことの保育③
まことの保育の実践①
合同礼拝と行事

担当：篠原典祐 指導員

最初に、DVD「合同礼拝―幼児のおつとめ―」（22分30秒）を見ました。

これは改訂版として2016（平成28）年4月に全加盟園に1部無償配付されていますが、参加者の中には「初めて見た」という方もあり、今後、積極的に園内研修等で利用をよびかけPRをしていく必要があると感じました。

特に、「回向」が新しく制定されているので、

受講者感話

しっかり習熟し実践していただきたいと思います。

その後、テキスト『真宗の教えとまことの保育』を使って（P.47～61）「合同礼拝の意義として、12項目を事前にチェックして、合同礼拝に臨むように」と話しました。

「日常の集い」では各園それぞれのアイデアを生かして、短い時間でも合掌・称名・礼拝をするようお願いしました。

また、「仏教行事の実践」を園児だけでなく、保護者・地域の方とも一緒にできるように工夫すると素晴らしい展開になると伝えました。

講座4　まことの保育④
まことの保育の実践②
「まことの保育」に学ぶコミュニケーションの力

担当：鷲尾純一　指導員

「まことの保育に学ぶコミュニケーションの力」を担当しました。AI（人工知能）の開発がめざましく人間のやるべき仕事が問い直されています。そんな時代にあって、保育はまさにひとによってひとが育てられる仕事です。コミュニケーションはそもそも何のためにするのでしょうか、情報伝達もありますが、思いの伝え合いが乳幼児期には特に大切であると思われます。子どもは、表情・声の調子・身体の触れあい・嗅覚など五感すべてを使って、自分が大切にされていることを感じとり、自己肯定感が育まれます。「まことの保育」で実践される子どもたちの風景を示し、「4つのおやくそく」が醸し出すコミュニケーションの力を確認することができました。また、まことの保育は、「新幼稚園教育要領」の前文等に掲げられている現代社会の課題を先取りした実践であることを受講者と共有しました。

講座5　まことの保育⑤
まことの保育の実践③
班別討議

担当：伊原宗信　指導員

この時間では、「まことの保育中央講座」で行う班別討議を受講者の皆さんで行っていただきました。

班別討議に際し、以下の心得をお願いしました。

「班員の課題、悩みを『みんなで聞く（傾聴）』ということを大切にしてください。当たり前のようですが、自分の思いを一杯にして聞くと、いいとか悪いとか正解を求めようとするあまり、相手を否定してしまうことがあります。語り手の思いに耳を傾ける中で悩みを共有しながら進めてください。そして、共有す

班別討議

る悩みに潜む課題を見つけ、その課題の中身を深めて行くことがこの班討議のねらいです。それでは各班に分かれてお願いします」。

講座6　まことの保育⑥ 保育連盟の研修について

担当：青木範幸 指導員

この講座では、保育連盟の実施する研修の種類とその特徴的な研修方法である「追跡学習方式」について、お話しさせていただきました。

参加者に理解しやすいように「研修のねらい」「研修の種類」「追跡学習方式の内容」「班別討議の実際の進め方」の4つに区分して説明しました。保育連盟の実施する講座の中には、通常の講演形式の講座とは違い、問題意識を共有するメンバーのグループ討議を中心に進めていく研修があります。それは自己の保育のありようを振り返り、気づきを通して自己の課題を見つけ出し、現場での保育実践に生かそうというものです。この養成講座を受講していただき、参加者の方々には、「追跡学習方式」の手法を理解していただけたのではないかと思います。

研修（1） 研修シミュレーション 指導員としての心構え

担当：織田智海 指導員

講座1から講座6までの講義を受けて、この時間は保育連盟が主催する研修会に、指導員として参画するためのスキルを学ぶため、班別討議の実際を見て、そして経験していただきました。

保育連盟が行う研修は、「追跡学習方式」で班別討議を中心として研修が行われます。班別討議では、自分の保育する姿を振り返り、自分自身の存在そのものについての問いが出てくるなかで、ささえられていることや生かされていることに気づいていき、「ともに育ちあう」ということを学んでいきます。

その討議の実際を経験していただくために、まず、研修委員が参加者役と指導員役になり、

指導員による研修シミュレーション

担当が作った台本に基づき、「配慮を必要とする子どもへの対応」などをテーマとして、班別討議のシミュレーションを行い、理解を深めました。

その後各班に分かれて、参加者が交代で指導員役をしながら班別討議を実際に行い、語り合う中で自分の姿に気付いていく過程と、指導員としての役割を学びました。

夕食交流会

担当：横湯千重子 指導員

2日目の夜は夕食交流会。講師の鷲尾先生のお話の後、乾杯をして、食前のことばを唱和してから、ビュッフェスタイルでお食事を頂きました。食事、お酒も進み、各テーブルで会話も弾んでいました。保育連盟副会長の山階総務も参加していただき、ご挨拶の中で励ましの言葉もかけてくださいました。

そして、楽しいゲームタイム！『まことの保育インスピレーションBINGO』では研修で学んだまことの保育に関するキーワードを当てるので、皆さん研修の成果を発揮していました。2つ目は『グループ対抗ジェスチャーゲーム』。脳と体を思いっきり使いながらジェスチャーゲームを楽しんでくださいました。どの班も素晴らしいチームワークで、僅差で4班が優勝しました。

指導員も一緒に参加して手本を見せたりと、たくさんの笑い声の中、最終日に向けての活力となった楽しい夕食交流会は終了しました。

夕食交流会

―3日目―

研修（2）
感想・討議の課題・研修の方法・各班報告・質疑応答・まとめ

担当：高輪真澄 指導員

この講座のまとめとして、まず、班別討議で話し合われた内容を各班の代表者から報告いただきました。その後、各班の発表に対して、指導員からコメントや補足を行いました。

まとめ

参加者の皆さんからは、「まことの保育」に関する質問や、今後保育連盟で取り組みたいことなど、たくさんのご意見・ご質問をいただきました。最後に全体の総括を行い講座を締めくくりました。

5回にわたって開催した「まことの保育指導者養成中央講座」は、2017年度をいったん区切りとし、今後は、今までの参加者を対象にするなど、さらに学びを深められるような、ステップアップのための講座を現在研修委員会において企画しております。

そのため2018年度は、カリキュラム構築に向けた協議を重ねていき、2019年度より、新たなステップアップ講座として再開予定です。

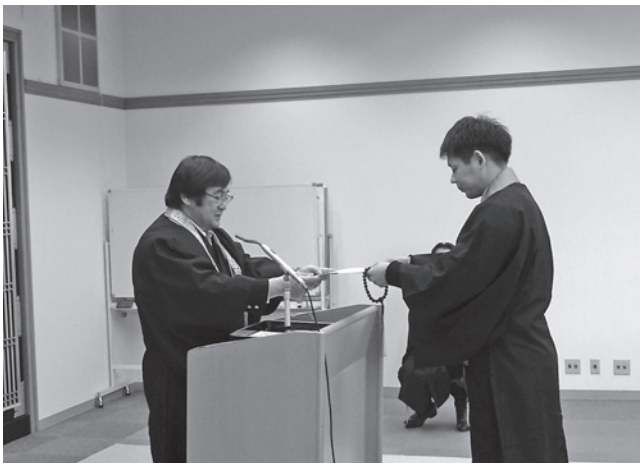
引き続き保育連盟の活動にご協力ご参加のほど、よろしくお願いいたします。

閉講式での参加者代表謝辞

2班　長崎教区　ふたばこども園（学童保育ポケットクラブ）藤川賢昭

私は長崎の学童保育（放課後児童クラブ）支援員として、まことの保育が学童でも実践できるのではないかと思い参加させていただきました。

3日間の指導員研修を通して先生方の講義を聞きながら私自身の子どもに対する接し方がどうだったのか考えている時、数年前に学童に来ていた小学校1年生の女の子Aちゃんのことを思い出しました。その子は保育園や

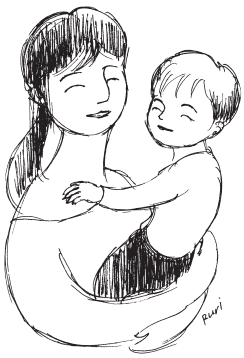


修了証授与

謝　辞

小学校での評価も良く、お手伝いやケンカの仲裁・勉強も頑張っていて、とても真面目な女の子でしたし私もそう思っていました。

ある日、子どもたちが小学校から学童へ来る途中にAちゃんと同学年の女の子が悪口を言われて悲しそうに帰ってきました。しかし、その日のAちゃんは友達を助けずに学童に帰ってきたので、他の学童支援員が「Aちゃん、どうして今日はお友達を助けてあげなかったの?」と言うと、何も答えずに下を向きながらランドセルを置いて誰もいない部屋の隅っこで横向きに丸まって壁を蹴り始めました。目にはうっすらと涙を浮かべ、5秒くらいの間隔で壁を蹴っている姿を見て私は何があったのか分からずにいました。数分後、Aちゃんが落ち着いてきたころに近づいて「どうしたの?」と聞いてみました。するとAちゃんはこう答えました「なんで私ばっかり頑張らないといけないの!みんなずるい!」。その言葉を聞いて私は数カ月間この子の何を見てきたのか、何を聞いてきたのか、全くAちゃんの気持ちに寄り添えてなかったことに気づきました。いい子でいないといけないと一生懸命に頑張っているAちゃんの辛さや、他者の評価や見た目だけでAちゃんはこういう子どもだと決めつけていた自分がとても恥ずかしかったことを覚えています。

今回の研修で研修員の先生方が私たちの拙い話や雑談までも自分のことのように聞いてくださっていました。その姿から身をもってまことの保育指導員のあり方を教えてくださっているのだと感じました。本当にありがとうございました。

また、共に研修に臨んだ受講生の方々は私にはない素晴らしい考えを持っていて、皆さんの話を聞く中で、みんなが子どもに対して同じ方向を向いていることに感動しました。これからも同じ方向を向いて歩んでいきましょう。皆さんありがとうございました。